

# 令和5年度 学校経営計画・評価計画

学校名	国分寺市立第四中学校	校長名	野口 大介	創立	昭和50年 創立48周年	校訓	四中魂	四つ葉のクローバー 思いやり、正義、助け合い、伝統
-----	------------	-----	-------	----	-----------------	----	-----	------------------------------

1 目指す学校	
目指す生徒像	目指す学校像と教師像
自己表現し、 認め合える生徒	生活指導 学校像 生徒の人格が尊重され、安心して通い、学びあえる学校。 教師像 生徒の人格と多様性を尊重し、個性を伸ばし、社会的資質や行動力を高める教師。
	特別活動 学校像 豊かな人間関係を育み、協力してより良い校風を育む学校。 教師像 生徒の適性や能力に応じた役割を与え、よりよい集団をつくりあげる教師。
	学習指導 学校像 時代の流れを踏まえ、生徒の将来を見据えた学力を育む学校。 教師像 生徒の「知っている・できる」を「使える」ようにし、生徒の未来を明るくする教師。

2 教育目標	すすんで学び心身共に健康で思いやりのある人になる
--------	--------------------------

## 3 学校経営計画

【経営計画の重点】 目指す生徒像「自己表現し、認め合える生徒」を基軸とした教育活動の改善Ⅱ  
～ より実効的に、より多面的に、より横断的に！ ～

項目番号	中期的目標	短期的方策	今年度の取り組み目標	今年度の方策
学習指導	1 基礎 次の学習や生活に活かしていく視点で、基礎的・基本的事項の習得を図る。	基礎的・基本的な知識・技能の向上。 支援型、個別最適化型への授業改善。	①授業や単位ごとに、何が分かる(できる)ようになるのかを示す。 ②授業内外の個に応じた指導の充実。 ③タブレットPC・ICT機器の発展的活用。	①授業のユニバーサルデザイン化を標準とする。 タブレットPC・ICT機器活用場面の開発。 ②生徒の側に立ったサポート教室の活用。 ③オンライン学習の個別活用。
	2 活用 主体的・対話的で深い学びを標準とし、ICTを高度に活用した指導を改善する。	各教科での学びによる見方・考え方を生かし、総合的な学習の時間を改善する。	①各教科学習で培われる見方・考え方を地域と繋がる学びに活かす。 ②横断的要素のある学習活動を再構築し、深い学びに向かう。	①授業、校内研修、保護者会等において各教科の見方・考え方の例を適切に発信・共有。 ②国分寺学の構築および目指す生徒像にせまるカリキュラム・マネジメントを進める。
	3 評価 生徒の努力と成果に対する適正な評価・評定の実施。	生徒の努力と成果に対する適正な評価・評定の実施。	①3観点による評価場面・方法の研究・開発に努める。 ②客観的学力状況の把握に努め、適正な評価基準と配点を定める。	①教科部会、各研究会での研究を推進する。 ②3観点による評価の説明、年間指導計画・評価計画、評価材料配点の家庭配布を行う。授業での説明も行う。
	4 道徳 特別の教科 道徳を実施する。指導方法と評価方法を刷新する。	考え議論する道徳授業への質的転換への試みを図る。	①意見を出し合い、議論する中で多様な価値観を学び、実践へつなげる。 ②中学生という発達段階を踏まえ、教師側の価値観の受容力を高める。	①年間指導・評価計画に基づき、多様な価値観を認め合い、考え議論する授業の実践。 ②いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげる。
生活指導・進路指導	5 人権 生徒の人格を尊重し、個性を伸ばしながら、社会的資質や行動力を高める。	人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。	①「仲間を大切に」を合言葉に生徒一人一人が大切にしたいようになる。 ②いじめ防止基本方針に基づき、未然防止、早期発見、早期対応を図る。	①全員が仲間であり、互いの違いを理解し合い、礼儀を守る意識と行動力を育む。 ②教室環境、言語環境を整える。教師側の察知力・価値観の受容力を高める。
	6 支援 様々な困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	障害者差別解消法に基づき、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う。	①合理的配慮について、関係者との合意形成を図りながら実施する。 ②特別支援教室の適切な運営、特支教育の理解・啓発を図る取組を推進する。	①特別支援教育担当教員を中心に関係機関との連携を図り、組織的な相談と支援を行う。 ②支援教室を含む校内組織の改善、教職員・生徒・保護者への啓発活動の実施。
	7 安全 生徒の危機管理意識を高めるとともに、自他の命や安全を守るようにする。	情報通信機器および巨大地震を中心に危機管理意識を高める。	①情報通信機器の安全・適正な使い方を学び、共有し、判断力を高める。 ②巨大地震発生時の対応をはじめ、様々な安全課題に取り組む。	①生徒の主体性を生かした活動を進め、規範意識やネットリテラシー向上を図る。 ②地震発生時の保護者引き渡し、救急救命、薬物乱用防止、SOSの出し方に関する教育を行う。
	8 進路 生徒の自己理解を深め、生き方を考え、主体的に進路選択ができるようにする。	総合的な学習の時間を活用し、3年間系統的に進路指導を行う。	①将来への希望を抱き、その実現のために主体性を育む。 ②系統的な進路指導により、自己理解、社会理解、情報活用能力を育む。	①人間関係形成、社会参画、自己実現、働き方の視点で将来設計能力を育む。 ②1年で職場体験、2年で上級学校体験、3年で進路に関する指導と支援を行う。
特別活動・その他	9 学級 学級活動を通して、生徒全員が大切な居場所であることを実感できるようにする。	仲間を大切にしたい学級づくり(全員が仲間、違いを尊重、礼儀)を推進する。	①ユニバーサルデザイン化により、学級を大切な居場所として機能させる。 ②生徒の多様性を生かした表現を促し、認め合える学級づくりを行う。	①教室環境の整備、学習や生活のきまり、仲間を大切にできる学級づくりを行う。 ②誰もがその係や役割において主体的になれるよう支援し、尊重し合えるようにする。
	10 行事 行事を通して、連帯感と責任感を高めるとともにより良い校風を育む。	本校の伝統と校風を踏まえ、生徒会組織を活用しながら企画・運営を行う。	①生徒の表現力を向上させ、互いを認め合う場として発展的に改善を進める。 ②校外学習は、総合的な学習の時間との関連を図り系統的に実施する。	①運動会、合唱コンクールの2大行事、校外学習、移動教室、修学旅行を実施する。 ②1年校外学習、2年移動教室、3年修学旅行と系統的にねらいを定め実施する。
	11 自治 自主的・実践的な生徒会活動を通して、学校生活の課題解決を図る。	学校生活や地域社会の課題を自らの課題として捉え、行動できるようにする。	①いじめ防止とともに、学校生活の向上に向けて取り組めるようにする。 ②地域社会へ目を向け、社会の一員としての自覚を高める。	①いじめ防止では未然防止に力を入れ、四つ葉のクローバー運動を主体性をもって進める。 ②ボランティア活動を推奨し、各委員会活動においては校外へ向けた活動を上げる。
	12 特色 生徒、保護者、地域にとって親しめるよう、特色ある学校づくりを推進する。	関係機関や外部講師等の招聘、各活動等から、持続可能な社会を考え、学ぶ。	①研究協力校の実績を生かし、情報機器活用の推進・発信・連携に資する。 ②SDGs17項目を意識した教育活動、情報共有、体験活動を開発する。	①生徒の学びを助けるタブレットPCの効果的かつ適正な使用を発展的に進める。 ②地域を生かし、繋がり、地域に役立つ学び・活動を創出し、国分寺学の基盤をつくる。

4 学校経営計画を支えるための組織と研修			
学校運営	教科	履修管理と適切な評価	年間指導計画に基づいた学習指導と履修管理を徹底する。 年間評価計画に基づき、適切な評価と評定を行う。 年間指導計画と評価計画は年度当初に家庭配布し理解を得る。
	学年 (横組織)	組織的な学年運営と 若手の育成	学校経営計画、学年経営計画に基づき学年運営を行う。 分掌(縦組織)との連携を密にするとともに、学年内の副担任機能を向上させる。 若手教員が職務を通して資質・能力を向上できるようにする。
	分掌 (縦組織)	組織的な分掌運営と 若手の育成	学校経営計画、分掌経営計画に基づき学校運営を行う。 各分掌組織および職務を通じた人材育成に努める。 各分掌内の職務内容、具体的手順や方法、記録や保存について整理・再構築する。
	経営支援	経営支援体制の 整備と効果的な運用	経営支援部の組織的かつ実効的な整備を進める。 共同事務室との連携を密にし、副校長支援機能面の開発を進める。 保護者組織(四サポ)との連携・協力を促進し、活気ある適性な活動を目指す。
	予算	予算の適正な執行と管理	私費会計を含めて適切に執行管理を行い、会計事故防止に努める。 予算の早期執行、消耗品費の削減により一層努める。 施設等の安全面については、教育委員会と連携し適宜対応する。
	感染症対策	ガイドラインに則った 適切な対応と情報発信	教職員の共通理解のもと感染防止策を組織的かつ適正に実施する。 正しい情報を共有・発信し、学校・生徒・保護者・地域の安心・安全に努める。
資質・ 能力開発	資質向上	人間性豊かな教師	○生徒指導の意義を正しく認識し、生徒の手本となる。 ○受け入れてもらっている安心感と厳しく叱ってもらえる安心感の両面性。 ○思春期の生徒の気持ちに向き合い、人格を尊重し、行為は毅然と正す。 ○信頼を根底から崩さないよう、服務事故防止研修を実施する。
	能力向上	専門家としての教師	○学区内の小学校と研究を推進し、学習指導と生活指導の連携を図る。 ○いじめ防止基本方針に基づいた、指導力・対応力の向上、重大案件の認識の深化。 ○特別支援教室開設に伴い、障害理解・啓発・適切な対応・支援に関する研修を行う。 ○人権尊重、虐待防止、アレルギー対応等教育課題に対応した研修を行う。
人事	人事・サービス	適正な人事管理と事故防止	○職層に応じた職務分担と最適な人事配置を行い、効率的な学校経営を行う。 ○服務事故防止研修を年3回以上実施し、服務事故の未然防止を図る。 ○勤務時間に関する法令を順守し、超過勤務の削減と休暇取得の促進に努める。

5 課外活動		
部活動	意義(目的)	個性・能力の伸長、体力向上、自主性・社会性の育成、豊かな人間関係の構築、生涯学習の基礎づくり等。
	目標と目的	生徒に適切な目標を与え、それに向かって努力する中で、目的の達成を図る。
	優先順位	安全第一。部活動は生徒の自主的な活動であり、学習活動、委員会活動、学級活動を優先する。
	顧問	教員は理解と協力により顧問を担当し、勤務時間外は自主的な指導とする。部活動指導員を継続任用する。
	休養日	部活動ガイドラインに沿い、水曜日は休養日とする。また、週休日は年間を平均して週1日を休養日とする。

6 学校評価計画		
項目番号	生徒(保護者)へのアンケート質問内容	
学習指導	1 基礎	あなた(お子様)は、各教科の基礎的なことは分かったりできるようになっていますか。
	2 活用	あなた(お子様)は、授業中に他の人との話し合いや協同活動を通して理解を深めることができているですか。
	3 評価	あなた(お子様)は、自分の評価(ABC)と評定(5段階)についてどのようにつけられているか理解していますか。
	4 道徳	あなた(お子様)は、道徳授業を通して多様な価値観を尊重し合えるようになっていますか。
生活・ 進路	5 人権	あなた(お子様)は、学級や学年、部活動などの仲間を大切にしていますか。
	6 支援	あなた(お子様)は、様々なことで困難を抱えている人への理解や配慮を心がけていますか。
	7 安全	あなた(お子様)は、情報通信機器や災害時の安全について理解を深めることができているですか。
	8 進路	あなた(お子様)は、各学年の進路指導の体験を通して中学卒業以降のことを考えられるようになってきましたか。
特別活動等	9 学級	あなた(お子様)は、所属する学級が自分にとって大切な場所になっていますか。
	10 行事	あなた(お子様)は、運動会、合唱コンクール、校外学習などで仲間と協力し、責任をもって行動できましたか。
	11 自治	あなた(お子様)は、委員会活動、四つ葉のクローバー運動など生徒会活動に取り組んでいますか。
	12 特色	あなた(お子様)は、読書活動を通して気持ちが豊かになったり読む力が付いてきていると思いますか。

- アンケートは、7月および12月に実施し、対象は生徒および保護者とする。
- アンケート評価は4段階とし、各項目とも上位2段階の合計数値が80%を上回るよう教育活動の充実に努める。